

Q 児童館で「ひろば」を行う意義はどのようなものですか。

A 児童館では、これまで地域の子育て家庭を対象として、遊びのプログラムを中心とした親子教室などの子育て支援活動を行ってきました。現在でも、こうしたプログラムのニーズは大きなものがあります。しかし同時に、いつでも気軽に行くことができ、親子がゆっくりと、自分たちのペースで交流できる「ひろば」のニーズも高まってきました。児童館型の「ひろば」の特徴は、ひろば型、センター型と異なり、小学生や中・高校生、地域の大人など幅広い年齢層が出入りする児童館で行うことにあります。小学生の遊んでいる姿は、乳幼児にとっては憧れであり、遊びのモデルとなります。親にとっては、自分の子どもの近い将来を想像でき、子育てを長い目で考えるきっかけとなります。そして、児童館型の「ひろば」で育った子どもたちは、やがて小学生になり、自ら友達と関係を作って、児童館で遊べるようになります。

Q 「ひろば」の担当者には資格が必要ですか。

A 保育士や児童厚生員などの特別な資格は必要ありません。子育て経験のある先輩お母さんや、児童館の親子クラブ、母親クラブなどで活動して下さっている方で、こうした活動に関心を持っている方に声をかけてみるのも良いでしょう。最も大切なことは、親の気持ちに共感し、親同士をつなぐことができる人材であることです。

Q 児童館の職員と「ひろば」の担当者との連携や役割について教えてください。

A 児童館の職員は、「ひろば」の担当者が運営しやすいように様々な角度から協力することが必要です。乳幼児が過ごす場として、安全で清潔な環境を整えるとともに、状況に応じて、児童館の職員も「ひろば」に参加して、担当者のサポートを行うことも必要です。また、互いに情報を交換・共有することも重要です。「ひろば」にいる時の様子、「ひろば」がない時の児童館での様子などについて意見を交換することができます。児童館の職員は、必要があれば保健センターや児童相談所など他の専門機関との連携を図り、「ひろば」の担当者が様々な問題を1人で抱え込まないように配慮することも大切です。

Q 「ひろば」でのプログラムの実施について教えてください。

A 「ひろば」において、児童館としてこれまで蓄積してきた遊びのプログラムのノウハウを活用することが考えられますが、「ひろば」では、親子がゆったりと過ごすことが重要ですから、プログラムばかりでは本末転倒です。雰囲気ほぐし、参加している親同士をつなぐことを目的とした部分的なプログラムを実施してはどうか。また、利用者の中には、プログラムに参加したくないという人もいます。全員で一斉に活動するというよりは、参加しても、見ているだけでも良いという自由な雰囲気を作ることが大切です。

Q 夏休み中、「ひろば」の場所の確保に困っています。

A 「夏休みなどの長期休暇中は、朝から小学生が遊びに来て「ひろば」を行う場所がない」という声をよく耳にします。確かに、乳幼児専用のスペースが無い児童館では、大きな問題となっています。例えば、小学生が昼食のために一時帰宅する11時くらいから14時くらいまでを「ひろば」の時間にあてるなど、時間帯で区切るのも1つの方法です。また、今回紹介する氷見市速川児童館のように、狭いながらも、あえて同じ場所で行うことによって、自然と小学生と乳幼児との交流が図られるという事例もあります。このような場合には、乳児の専用スペースを作ったり、小学生には「小さなお友達と遊んであげてね」と事前に話しておくなど、安全面に配慮することが必要です。

Q 児童館の自由利用と「ひろば」の違いは何ですか？

A 「ひろば」の大切なポイントは、親子を温かく迎え、見守ってくれる「ひろば」の担当者がいることです。親子が孤立しないように、ほかの親子との関係をつないだり、子どもとの接し方や遊び方のヒントを提示するなど、日常の子育てについて様々な相談に応じることができるスタッフがいて、親子にとって安心感のある、心地よい居場所をつくることができます。

童心児童館 & 「どうしん」つどいの広場（童心会館内）

長い歴史を持つ「子ども図書館」を活用し、子育て支援事業に取り組む複合福祉施設。



童心児童館 プロフィール

運営主体 財団法人童心会
所在地 〒871-0055 大分県中津市殿町1380-1
TEL.0979-22-2556
開設 平成4年4月
開館時間 9時～17時（月曜日～土曜日）
スタッフ 常勤3名
利用者数 月間延べ人数約900人

「童心児童館」及び「どうしん」つどいの広場は、昭和39年に財団法人童心会によって建てられた九州初の私立児童図書館「童心会館」内にあります。開館以来「童心会館」の運営は、地域の企業や市民の有志で構成される後援会によって支えられており、地域の文化センターとして青少年の育成に貢献する役割を担ってきました。しかし、少子化・都市化の進展、女性の就労率の増加など子育てを巡る大きな環境変化の中、児童図書の利用度も

ゲーム機の普及など子どもの遊びの多様化により減少。「児童図書館」としての役割・機能が低下する中、次代へ向けた新たな支援事業の必要性を痛感し、昭和63年、“障害児の機能回復と居場所づくり及び健常児を交えた親子交流”を目的とした「おもちゃ図書館」を開設、さらに平成4年「童心児童館」、平成14年「どうしん」つどいの広場を開設し、現在4つの機能を持つ複合福祉施設として幅広く子育て支援事業に取り組んでいます。

事業の特徴

現在「童心児童館」は、近隣の小学校の児童を対象にした放課後児童クラブが主体。この地域における女性の就労率の高さを示すように、小学校1年生から3年生までの児童約60名のうち23名が利用しており、その指導にあたるスタッフを“先生”と呼ぶらずに“おばちゃん”と呼ぶ家庭的な雰囲気の中で、子どもたちは庭で木登りや土遊びをしたり、本を読んだりしながら自由に思い思いの時を過ごしています。学校の夏休み期間中は、近くから遊びに来

る幼児だけでなく放課後児童クラブの子どもたちも朝から来館。「つどいの広場」を利用する親子も入り混じり“大賑わい”の雰囲気の中で、お互いの専用スペースを設けながら自然なかたちで異年齢交流が行われています。なお、プログラムの計画や実施、相談などの広場の運営については、基本的に広場スタッフが行っています。児童館スタッフは、広場スタッフが動きやすいように目を配りながら、さりげなくサポートに当たっています。

